棒道 モデルコース⑤
甲斐源氏の痕跡コース

雄大な風景の中に身を置きながら、甲斐源氏と関わりの深い城跡や神社仏閣をたどる

12世紀頃、八ヶ岳南麓の逸見（谷戸城跡～若神子城の周辺、諸説あり）に、甲斐源氏の祖・源清光が移り住み、「逸見」という姓を名乗りました。八ヶ岳南麓の地形は馬を育てるのに適しており、かつて朝廷に馬を貢納するための牧場・御牧が置かれていたため、甲斐源氏は騎馬による大きな軍事力を得ることができたと言われています。また、御牧を作るために伐った木は木材として、あるいは刀などを作る燃料として活用されました。これらの環境的要因が、後に山梨県各地、全国各地に展開していく甲斐源氏の躍進につながったと考えられます。

逸見の地は、源（逸見）清光の没後、逸見氏などが治めましたが、15世紀頃には今井氏が押さえ、さらに16世紀頃には武田氏の支配下となりました。いずれも、甲斐源氏の一派です。

棒道沿いには、甲斐源氏に連なる人々とゆかりのある城跡や、彼らが崇敬したとされる神社仏閣が点在しています。八ヶ岳を背に甲府盆地に向かって歩けば、正面に富士山を、右手に南アルプスを望む雄大な景観が広がります。甲斐源氏たちも見たであろう眺望の中、甲府盆地に向かって下っていくコースです。

コース概要

S JR甲斐小泉駅　G 若神子城跡

距離：約11km

所要時間：約5.5時間

北杜市考古資料館

谷戸城に隣接した考古資料館です。北杜市内で出土した旧石器時代から中世までの遺物を展示。御牧や甲斐源氏、棒道を含む八ヶ岳台地の交通網についての解説、谷戸城の模型など、このコースに関する情報も充実しています。

若神子城跡

新羅三郎義光、源義清、あるいは清光の城であったという説がありますが、未詳です。

諏訪や佐久へ抜ける街道が集まる巨摩郡北部は交通の要衝であり、特に若神子は棒道と佐久往還が分岐する要地です。戦国時代、信濃侵攻を考えていた武田信玄の父・信虎は、逸見氏のあとにこの地を押さえていた今井信元を下し、八ヶ岳台地を支配下に置きました。若神子城は武田氏の重要な軍事拠点となり、八ヶ岳台地にめぐらされた烽火台網の重要な中継地にもなりました。武田家滅亡後に徳川氏と北条氏が甲斐の覇権を争った際には（天正壬午の乱）、北条氏は若神子城を、徳川氏は新府城（韮崎市）を本陣としました。

現在は公園として整備されています。城上からは茅ヶ岳や富士山を一望できます。

ひとあし伸ばして　清光寺

逸見清光が12世紀に天台宗寺院として創建し、1475（文明7）年に曹洞宗に改宗しました。

境内には清光の墓所があります。境内には、戦国時代後期の1575（天正3）年に武田信玄の息子・勝頼が出した制札（禁止事項、命令等を記した札）があり、自領内での殺生や狼藉を禁止しています。県内にある勝頼の制札としては最古であることから、北杜市指定文化財になっています。

谷戸城跡

源清光が築城し、この地で「逸見」と名乗ったとされます。八ヶ岳の山体崩壊に伴って形成された、流山地形を生かす構造です。

鎌倉時代に成立した歴史書『吾妻鏡』には、源平合戦の渦中、清光の子・武田信義と孫・一条忠頼が信濃の平家勢力を討伐した帰りに、「逸見山」で源頼朝の使者・北条時政と会見したと記されており、この「逸見山」は谷戸城だという説があります（若神子城との異説あり）。戦国時代には、武田氏の烽火台網（煙を用いた情報伝達網）の中継地にもなりました。

春は城跡内の桜が美しく、城上からは八ヶ岳、南アルプス、富士山、田園風景が一望できます。

棒道 モデルコース⑥
武田発祥の地コース

武田家の祖・武田信義にまつわる地を巡る

源清光は多くの男子に恵まれ、彼らは山梨県各地に移り住み、勢力を広げました。その一人である信義は、逸見の南にある武田（韮崎市神山町）の武田八幡宮で元服し、「武田」という姓を名乗りました。これが、武田信玄を輩出した名門武家・武田氏の始まりです。

武田信義は、源平合戦でも活躍し、一時は源頼朝や義仲に並ぶ武家の棟梁でした。しかし、頼朝が自分を中心とした組織づくりを進める過程で、独立心の強い甲斐源氏が障害になると考え、排除することを企てます。そのため武田信義の息子である一条忠頼は殺害され、信義は引退。信義が力を失ったためか、信義が元服した武田八幡宮の別当寺（神社を管理する寺）は、すぐ側にある信義ゆかりの寺・願成寺ではなく、頼朝に厚遇された信義の弟・加賀美遠光が再興した法善寺（南アルプス市）が務めました。

武田発祥の地である神山には、城郭跡や館跡、信義が崇敬した神社仏閣など、武田氏に関連する遺跡が多く残っています。棒道からは離れていますが、合わせて歩けば、甲斐源氏から武田氏へとつながるストーリーが見えてきます。北に八ヶ岳、東に茅ヶ岳、その奥に秩父連峰、南東に富士山を望む景観も魅力です。

コース概要

S G JR韮崎駅

距離：約9km

所要時間：約4時間

願成寺

信義の菩提寺。境内には信義の御霊を奉った五輪塔があります。本尊である阿弥陀三尊像は国の重要文化財で、拝観は要予約。この阿弥陀像は一時売却の危機にありましたが、大村智博士（韮崎市神山町出身のノーベル賞受賞者）の父・大村恵男氏が売却反対派を主導して文化財の流出を防ぎました。また、恵男氏は、博士が賞を取るたびに願成寺に参拝していたそうです。

武田信義館跡

武田信義の館があったとされる場所で、現在は看板が整備されています。跡地には民家や耕地が混在していますが、お屋敷、お旗部屋、的場などの地名が周囲に残っています。発掘調査では、権力の象徴である中国産の青磁、宴で使われたかわらけ（素焼きの小皿）、富の象徴である蔵跡などの建物跡が出土しています。

武田八幡宮

源清光の子・信義が元服したことから、武田家発祥の地となった神社。9世紀、嵯峨天皇の勅命により、宇佐八幡宮を勧請し、地神の武田王と合祀したのが始まりです。武田家の氏神として、代々崇敬されてきました。本殿は武田信玄が再建したもの（国指定重要文化財）です。現在の二ノ鳥居（県指定文化財）の建築年代は元禄14年（1701年）で、建立の歴史は信義の弟・加賀美遠光の活躍した鎌倉時代の始まりにまで遡ると伝えられています。

韮崎大村美術館

ノーベル賞受賞者・大村智博士が故郷の韮崎市神山町に開館した美術館です。

ひとあし伸ばして　新府城跡

武田信玄の死後、息子勝頼が甲府から拠点を移すために築城。織田軍の侵攻を目前に、勝頼自ら火を放ち、灰燼に。直後、勝頼は天目山（甲州市）で自害し、新府城は武田氏最後の城となりました。

新府城があるのは、八ヶ岳の山体崩壊でできた天然の要害・七里岩台地の断崖です。ここは、棒道が近く、佐久往還・信州往還・駿州往還（河内路）が交わる要地。JR韮崎駅の隣駅・新府駅の付近にあります。続日本100名城にも認定されている、武田氏の歴史を語る上で欠かせない場所です。